

近畿中国局フォレスターNEWS

三重森林管理署の森林総合監理士と三重県林業普及指導員との連絡会議の開催について

令和4年7月26日(火)三重県、三重森林管理署、近畿中国森林管理局との共催により、三重県庁所属の林業普及指導員と、三重森林管理署、近畿中国森林管理局の森林総合監理士等、17名が集まり、「ウッドショックによる地域の現況と課題」をテーマに連絡会議を開催しました。

はじめに三重県鈴鹿市の鈴鹿木材株式会社にて、原木市を見学し、市況の動向を把握しました。その後三重県鈴鹿庁舎に移動し、三重県、三重森林管理署、近畿中国森林管理局から、ウッドショックによる影響等に関する状況報告を行いました。

現在はウッドショックの影響は緩和されているが、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻、急激な為替円安、原油価格高騰などにより、今後の木材価格にどのように影響するか不透明な状況にあります。

三重森林管理署管内では、県北の搬出条件の悪い分収育林地が2件落札し、これはウッドショックの影響によるものであると推測されるとの報告がありました。

一方、三重県では、ウッドショックの影響によりチップ用材が原木市場に流れており、バイオマス発電施設へのチップ用材供給が逼迫している状況が続いているとの事でした。

引き続き、三重県と三重森林管理署による木材の需給調整の実施検討など、意見交換を行い、今後も連携していくことを確認し、閉会しました。



原木市の様子



意見交換会の様子

防護柵現地検討会の開催について（兵庫森林管理署）



兵庫県立森林林業技術センター所長による挨拶

令和4年9月9日(金)、兵庫県宍粟市にて兵庫県、兵庫農林機構、森林整備センター、宍粟市森林組合、兵庫森林管理署、近畿中国森林管理局の関係者34名の出席により、防護柵現地検討会が開催されました。

民有林、国有林ともに人工林資源が成熟し、主伐再造林を進めていくうえで、獣害対策、特にシカ防護柵の設置は不可欠ですが、現況のままでは、耐久性、設置コスト、維持管理面に様々な問題があり、仕様の見直しは喫緊の課題となっています。

そのような状況の中、民有林、国有林の森林総合監理士が連携し、課題解決に向けて実際に継続的に行う上で最初の取組となる検討会です。



各機関からの取組説明



森林林業技術センター内の単木保護管の状況

午前中は、兵庫県立農林水産技術総合センター（森林林業技術センター）講堂にて、各機関から主伐再造林・シカ防除の取組、技術開発の成果等について情報交換を行いました。

（次ページに続く）



森林整備センターの仕様
(樹脂網+強化繊維網)

午後からは、森林整備センター発注による再造林地(R3植栽)を見学し、防護柵仕様の確認等を行いました。その後、河原山国有林において実行中のシカ防護柵の作設現場にて国有林の仕様による防護柵設置の実演見学、意見交換等を行いました。

今後は、今回の検討会での事例等をそれぞれの機関に持ち帰り検討を行い、令和5年1月を目処に、WEB会議等で検討成果の報告を行い、最終的には各機関における仕様書の見直しにつなげていく予定です。



森林整備センターの仕様
(被覆番線による支柱と網の結合)



国有林の仕様
(結束バンドによるスカートネットの固定)



和歌山森林管理署職員による実演
(立木に優しい施工)



参加者全員で記念撮影

林野庁

近畿中国森林管理局

技術普及課

国民の森林・国有林



TEL : 06-6881-3524 FAX : 06-6881-3553

URL : <http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>

〒530-0042 大阪市北区天満橋1丁目8-75

編集後記

今年度初の発行となりました。

今回は、各県の森林総合監理士、林業普及指導員と、国有林の森林総合監理士の協働による取組事例をあげました。

どちらも近畿中国森林管理局管内では初となる取組です。各府県との連携を強化しつつ継続的なものにしてゆきたいと思います。